

平和憲法・9条をまもる 岩手の会 ニュース No.243

2026. 1. 1
発行：平和憲法・9条をまもる
岩手の会 実務者会議
連絡先 県生協連・県消団連
TEL 019-684-2225
FAX 019-684-2227

「税金は暮らしの拡充に 戦争準備の軍拡は中止して、憲法、平和、いのち、くらしを守る政治への転換を求める
請願署名（略称=大軍拡反対請願署名）」に、ご協力ください！ ◇署名用紙が不足の場合は、岩手県生協連までご連絡ください。

新春メッセージ

希望としての憲法

（弁護士、平和憲法・9条を
まもる岩手の会呼びかけ人
石橋 乙秀さん）

1989年にベルリンの壁が崩壊した時に、高名な歴史学者は「歴史は終わった」と言いました。共産主義が破れ、世界中が民主主義と人権の国になるということでした。しかし、その後、新自由主義の流れの中で、世界中で経済的格差が拡大し、～ファーストが叫ばれ、分断の世界となりました。また、戦争はなくならず、ウクライナのように軍事力が強い国が弱い国を攻撃し、ガザ地区ではジェノサイドが行われています。まさに、世界中で公然と基本的人権の侵害が行われ、平和が害され、国際協調は死文と化し、暗黒の世界となっています。

しかし、このような暗黒の時にこそ我が憲法は光を放つのです。我が憲法は、人間として当然有する基本的人権及び国際協調主義に基づいた平和主義を高らかに謳っています。理想と言われるかもしれません、憲法は為政者を縛るものであり、為政者は権力を濫用する傾向にあることから理想であることが理にかなっているのです。憲法は、世の中が平和ではなく、基本的人権が実際に侵害されている人がいるからこそ理想を語っているのです。

憲法改正論議において、自衛隊について現実にあるのだから憲法に規定して当然という議論があります。しかし、戦前の旭日旗を今も使用している自衛隊を憲法に規定したら、それを根拠にますます軍事力を増強していきます。更に、我が国はこれまでに日米安保条約により、アメリカの意向に沿って軍事力を増強し、集団的自衛権にまで進みましたが、為政者が徐々にしかできなかったのは憲法9条があったからです。これで、自衛隊を憲法に規定すればたがが外れ、一気に軍事行動に進んでいくと思われます。

また、自然災害の対応のために緊急事態条項を規定すべきだという議論があります。緊急事態条項は、基本的人権を制限する根拠となり、重大な危険をはらんでいます。為政者は常にみずからの権力を最大化することをもくろみますが、現在の災害に関する法制度で何ら問題はありません。

我が憲法は、現在の政治的状況のなかで大きな危機を迎えています。しかし、我が憲法こそ、現在の世界情勢の中で未来を照らす光であり、希望です。確かに、我が憲法は、極めて重大な問題である気候変動に対応する基本的人権である環境権の規定がなく、不十分です。しかし、改憲勢力が求めているのは、国家主義に根ざした自衛隊であり、緊急事態条項です。私は、希望としての我が憲法を守ることが次世代への義務だと思います。



12・8武器はいらない核もいらない平和を守る赤紙行動

—県内 12 自治体で 22 団体・80 人が参加

アジア・太平洋戦争に日本軍が突入し、戦争を拡大させた 12月8日、岩手県母親大会連絡会として赤紙チラシ（召集令状の写し）を配布しました。盛岡行動には 28 人が参加し、街頭で訴えました。

雨が降り、時折雷もある中でチラシを渡しながら戦争反対を訴えました。おりしも、高市首相による台湾有事が「存立危機事態」になりえるという国会答弁に、国際的緊張が高まる中での行動でした。「戦争の歴史を二度と繰り返してはならない。自分のこととしてとらえ、声を上げよう」と訴えると、受け取った人がじっと見る姿もありました。

県内では、遠野母連が「風の丘」で、二戸母連は二戸駅東口で、奥州金ケ崎母連はコープアテルイ、一関母連はコープ一関コルザ、花巻母連はコープ花巻あうる前、大船渡母連はサンリア前、紫波母連は紫波中央駅前など県内 12 力所で行動しました（岩手県母親大会連絡会会長 鈴木まき子）



第7回岩手県平和大会を開催！

— 岩手県平和委員会 —

岩手県平和委員会を事務局に実行委員会形式で行われ、12月13日に県内各地から13人が参加しました。大会は、県内で取り組まれているさまざまな平和活動や実践を交流し、今後の運動に生かしていくという目的で開催されました。

今年の注目報告の一つは、11月に東京都内で2泊3日の日程で開かれた「ピースエッグ2025」に参加した大学生による報告でした。昨年、福島で開催されたピースエッグには大学生1人が参加しましたが、その経験をもとに周囲の学生に声をかけ、今年は4人での参加を目指しました。急きょ民青同盟と協力してカンパ活動に取り組み、最終的に大学生3人を送り出すことができました。報告では、グループで東京大空襲・戦災資料センターや第五福竜丸記念館を訪問し、戦争の被害や核兵器の問題を学びながら、「自分たちに何ができるのか」を話し合ったことなどが紹介されました。



もう一つの報告は、宮古市から毎年1月に約1か月間、沖縄に滞在し、辺野古新基地建設反対の座り込み行動などに参加している岩間さんからのものでした。現地で見聞きした辺野古新基地建設の現状や、沖縄の人びとの声が報告されました。

当日はグループ討論を中心に進められ、「ぜひ岩手にも9条の碑をつくりたい」といった前向きな意見や希望も出されました。参加者が交流を深め、今後の平和の取り組みにつなげる有意義な大会となりました。（春山一男）

— クマ対策 予算前倒しも 首相会見 日中緊張緩和へ対話意欲 !? —

臨時国会は12月17日閉幕し、首相は記者会見を行い、諸課題について説明しました。国民の要望に応えていたかどうか、先ずはその報道を見てみましょう。

【‘25・12・18付け 岩手日報】…台湾有事を巡る首相の国会答弁に反発する中国との関係について「懸案と課題があるからこそ意思疎通が重要だ」と述べ、対話による緊張緩和に意欲を示した。…台湾有事が存立危機事態になり得るとした国会答弁に「日本政府の従来の立場を変えるものではない。様々なレベルで中国や国際社会に粘り強く説明していく」と明言。中国と戦略的互恵関係を推進したいとの考えを重ねました。…

【‘25・12・18付け しんぶん赤旗】—「台湾発言撤回改めて否定」— 高市首相が会見—高市首相が17日、臨時国会の閉会を受けて首相官邸で記者会見を行いました。…高市首相は、中国との関係について、自身の「台湾発言」によって日中関係が悪化の一途をたどっているにもかかわらず「私の答弁は日本政府の従来の立場を変えるものではない」と従来の言い訳を繰り返し、「（中国と）建設的かつ安定した関係を構築していく必要がある」と明言。「台湾発言」を撤回する意向は示しませんでした。…

【‘25・12・17付け しんぶん赤旗】…（岩淵友参議員は参議院予算委員会で反対討論に立ち、）高市首相の台湾有事を巡る発言は、（日本国）憲法を蹂躪し、日中間の歴史的経過や国交正常化以降の一連の合意に反するものだとし、撤回するよう求めました。…

その発言を撤回しない限り、その発言は外交論議の中に残っているので、その後の言い訳として効果ないのでしょう。コラム子が助言するまででもないでしょう。（T）



「1月の岩手の会街宣行動」

9日(金)12:15～12:45 盛岡市大通・野村証券前

ご都合のつく方は、ぜひご参加ください！